

# 博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程

博士学位論文審査委員会

主 査	古 屋 繁
審査委員	吉 武 良治
審査委員	山 崎 憲一
審査委員	田 中 みなみ
審査委員	小 館 亮之
*審査委員	

氏 名	國枝 孝之
論文題目	地域課題解決に向けた産学官連携の役割と質的变化 香川県地域課題解決のための情報サービス開発
〔論文審査の要旨〕 首都圏への一極集中と少子高齢化が進む現在の日本社会において、地方創生は大きな課題であり、地方においては地域課題解決が、今後の地域活性化においては大きな鍵となっている。 本論は、地域に根差した地域課題解決策を提供するための活動指標となる地域開発プロセスを設計し、産学官が内発的に連携し、地域課題解決を進めるための要件の抽出をおこなった。 そのため、2015年からの産学官（株式会社リコー、香川大学、香川県）連携によるプロジェクト（広告表示プリンタシステム「カダポス」、観光日記生成/印刷システム「カダイアリー」、旅の思い出を記録する観光ガイドブック生成/印刷システム「カダパン」）とその事業化をとおして、以下の知見を得た。 ・課題解決策の具現化においては、企業によるオープンな情報公開が鍵であり、企業の技術を守りながら、利用者が使いたい機能を簡単に利用できるAPI（Skimming APIと呼ぶ）を設計し提供することが重要である。 ・自治体の内発的な参画においては、発案された課題解決策を提案だけでなく、具体的にプロトタイプシステムとして実装し実証実験をおこない協力自治体に有効性を示すことが重要である。 ・課題解決策の自治体の評価と水平展開の可能性が、企業が事業化に取り組む要因となる これらの成果（「カダパン」）として、大学と企業と連携し、ある自治体（香川県善通寺市）で商用として運用する事業が進んでおり、知見の有効性が示された。 なお、公聴会・本審査は、7月18日（土）14時より、Zoomによるリモートで行われた。出席者は、上記審査員の他に10余名で、約1時間の発表と1時間の質疑を行った。 公聴会の質疑では、産官学の「官」に関わり方や他の自治体への導入するときの障害等についての質問があり、適切に回答できたと判断した。また、「「産業が地域内で回るようになる」というゴール（めざすべき姿）が明確にされて全体が整理された。「業務委託ではダメ」がわかりやすかった。」などこの研究に対する評価に関するコメントが会場からあった。 公聴会のあとの審査では、関連論文（査読付論文4件、査読付国際学会5件）の確認をおこなった後、発表と質疑の内容をふまえて審議した。予備審査で指摘を受けた説明不足（主に質疑で問われた部分）や論文に反映できていない部分（成果測定に関する記述）も修正されており、全員一致で「合格」とした。	